

2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月5日

上場会社名 相鉄ホールディングス株式会社
 上場取引所 東
 コード番号 9003 URL <https://www.sotetsu.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 加藤 尊正
 問合せ先責任者 (役職名) 経営戦略室部長 (氏名) 馬淵 貴裕 TEL 045-319-2043
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無: 有
 決算説明会開催の有無: 無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績 (累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	221,840	△0.3	30,421	△8.0	28,648	△10.9	20,376	△11.6
	222,588	16.4	33,051	54.6	32,139	59.1	23,057	65.3

(注) 包括利益 2026年3月期第3四半期 19,662百万円 (△12.0%) 2025年3月期第3四半期 22,334百万円 (54.8%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 211.95	円 銭 —
2025年3月期第3四半期	235.34	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円 775,997	百万円 192,590	% 24.8
2025年3月期	757,264	182,079	24.0

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 192,526百万円 2025年3月期 181,985百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 30.00	円 銭 —	円 銭 35.00	円 銭 65.00
2026年3月期	—	30.00	—		
2026年3月期(予想)				35.00	65.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円 312,000	% 6.8	百万円 35,300	% △6.7	百万円 32,600	% △6.4	百万円 22,500	% 0.4 円 銭 234.45

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- | | |
|----------------------|----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | ：無 |
| ② ①以外の会計方針の変更 | ：無 |
| ③ 会計上の見積りの変更 | ：無 |
| ④ 修正再表示 | ：無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期 3Q	98,145,499株	2025年3月期	98,145,499株
② 期末自己株式数	2026年3月期 3Q	2,176,220株	2025年3月期	862,502株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期 3Q	96,142,010株	2025年3月期 3Q	97,972,106株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、上記の業績予想に関する事項につきましては、添付資料P.3「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当四半期の経営成績の概況	2
(2) 当四半期の財政状態の概況	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(セグメント情報等の注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 経営成績等の概況

(1) 当四半期の経営成績の概況

当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績につきましては、ホテル業において好調な宿泊需要により増収・増益となったものの、不動産分譲業での販売戸数減少などにより、減収・減益となりました。

営業収益は2,218億4千万円（前年同期比0.3%減）となり、営業利益は304億2千1百万円（前年同期比8.0%減）、経常利益は286億4千8百万円（前年同期比10.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は203億7千6百万円（前年同期比11.6%減）を計上するにいたりました。

各セグメント別の状況は以下のとおりであります。

a. 運輸業

鉄道業におきましては、海老名駅をはじめとする8駅の自動改札機について経年による更新を行い、お客様の利便性向上を図るとともに、ゆめが丘駅・湘南台駅に列車接近メロディを導入し、相鉄線の認知度・好感度の更なる向上を図りました。また、引き続き、海老名駅改良工事及び鶴ヶ峰駅付近連続立体交差工事を推進いたしました。さらに、「相鉄新横浜線 通勤定期券 新規購入・区間変更キャンペーン」や「ゆめきば切符キャンペーン」を実施したほか、ゆめが丘ソラトスにて鉄道4社局合同イベント「YUMEGAOKA Dream Hill トレインファンフェスタ」を開催するなど、沿線の魅力向上に努めました。

バス業におきましては、綾瀬営業所の一部系統において、減便ダイヤを実施しておりましたが、6月より復便及び利便性の向上のため、ダイヤ改定を実施しました。また、空港リムジンバス・二俣川羽田線において運賃改定を実施したほか、10月より御殿場プレミアム・アウトレット線の運行を再開するなど、収益力の向上に努めました。さらに、相鉄グループのさらなるイメージアップを図るため、鉄道車両に合わせた新カラーを採用した路線バスを導入したほか、CO₂排出量削減による脱炭素社会の実現を目指し、国産EVバス3両を導入いたしました。加えて、運転士の確保や経営改善によるバス路線網の維持などの課題解決に向けて、「完全キャッシュレスバス」の実証実験にも取り組んでおります。

以上の結果、運輸業全体の営業収益は340億2百万円（前年同期比3.6%増）、営業利益は57億2千万円（前年同期比24.4%増）となりました。

b. 流通業

スーパーマーケット業におきましては、7月に神奈川県藤沢市に「そうてつローゼンみろく寺店」を開業いたしました。同店は建て替え計画に伴い2023年11月に閉店し、再出店した店舗になります。既存店舗では10月に藤沢市の「そうてつローゼン鶴沼店」、11月に葉山町の「そうてつローゼン葉山店」で改装を実施し、店舗の活性化を図りました。商品面では、インストアベーカリー「葉山ボンジュール」とフェリス女学院大学とのコラボレーションによる「地産地消」と「フードロス」に配慮したパンの第3弾として4種類を新たに販売いたしました。

その他流通業におきましても、顧客ニーズの変化に対応し収益力を強化するため、コンビニエンスストア事業において新規店舗「ファミリーマート ルミネ横浜/S店」の開業や既存店舗のリニューアルを行うなど、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、流通業全体の営業収益は739億2千4百万円（前年同期比3.5%増）、営業利益は5億1千2百万円（前年同期は営業損失1億3千7百万円）となりました。

c. 不動産業

不動産分譲業におきましては、横浜市神奈川区の「グレーシア横浜」、横浜市旭区の「グレーシア南万騎が原マーケス」及び横浜市金沢区の「プライムパークス横浜並木 ザ・レジデンス」の集合住宅並びに横浜市泉区の「グレーシアライフ横浜ゆめが丘」、横浜市旭区の「グレーシアライフ横浜三ツ境」、横浜市旭区の「グレーシアライフ横浜希望ヶ丘」等の戸建住宅を中心に、集合住宅及び戸建住宅87戸を分譲いたしました。また、賃貸マンションの「グレーシアフィットいづみ野」及び「グレーシアフィット横浜」の入居を開始しました。

不動産賃貸業におきましては、ゆめが丘エリアにおけるまちづくり「WELL-BEING TOWN ゆめが丘」と、星川駅～天王町駅間の高架下空間を活用した施設「星天qlay」が2025年度グッドデザイン賞を受賞し、相鉄線沿線のまちづくり・住まいづくりの取り組みで2年連続、2件の受賞となりました。また、相鉄グループのエリアマネジメント活動の一環で開催している、子どもたちに向けた「人」と「自然」という地域の資源を活用した体験学習型イベント「相鉄線沿線「学びクラブ」」では、横浜市瀬谷区にある「Augusta Milk Farm（相澤良牧場）」で酪農体験を開催する等、相鉄線沿線ならではのイベントを開催し、「選ばれる沿線」の実現を目指したまちづくりを推進しました。

以上の結果、不動産業全体の営業収益は450億7千6百万円（前年同期比20.7%減）、営業利益は92億9千9百万円（前年同期比44.1%減）となりました。

d. ホテル業

ホテル業におきましては、「横浜ベイシェラトン ホテル&タワーズ」において、宿泊は、花火大会やTICAD（アフリカ開発会議）などのイベントに起因して需要が増加したほか、レストランではホテル開業27周年を記念した特別メニューを提供するなど、付加価値提供による集客力及び収益力の向上に努めました。宿泊特化型ホテルにおいては、相鉄フレッサイン長野上田駅前をリニューアルオープンし、収益力の向上を図りました。

以上の結果、ホテル業全体の営業収益は572億4百万円（前年同期比14.6%増）、営業利益は138億4千万円（前年同期比34.5%増）となりました。

e. その他

ビルメンテナンス業におきましては、前年度に導入を開始したA I 建物管理クラウドシステムの導入施設を順次拡大し、I C Tの積極的な活用による業務の効率化を推進いたしました。また、積極的な営業活動により新規物件及び既存物件における臨時業務の受注拡大を図るとともに、良質かつ安定したサービスの提供に努めました。

その他の各社におきましても、業績の向上を図るべく、積極的な営業活動に努めました。

以上の結果、その他全体の営業収益は207億9千万円（前年同期比2.6%増）、営業利益は12億8千2百万円（前年同期比29.0%減）となりました。

(2) 当四半期の財政状態の概況

(資産、負債、純資産の状況)

当第3四半期連結会計期間末の総資産につきましては、棚卸資産の増加等により、前連結会計年度末に比べて187億3千3百万円増加し、7,759億9千7百万円となりました。

負債は、有利子負債の増加等により82億2千2百万円増加し、5,834億7百万円となりました。なお、有利子負債の残高は、借入金・社債合わせまして4,318億7千8百万円となり、164億9百万円増加いたしました。

純資産は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により105億1千1百万円増加し、1,925億9千万円となりました。なお、自己資本比率は24.8%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、前回発表時（2025年10月30日）の予想から変更はございません。

※業績予想につきましては、発表日現在で入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後さまざまな要因によって予想数値と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
資産の部		
流动資産		
現金及び預金	16,008	12,460
受取手形及び売掛金	15,942	15,968
営業投資有価証券	15,568	19,283
棚卸資産	79,531	91,914
その他	14,662	14,321
貸倒引当金	△30	△40
流动資産合計	141,683	153,907
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	212,031	206,518
機械装置及び運搬具（純額）	33,345	44,405
土地	262,880	263,072
使用権資産（純額）	14,242	13,044
建設仮勘定	8,324	9,747
その他（純額）	7,050	6,750
有形固定資産合計	537,875	543,538
無形固定資産		
のれん	22	—
借地権	3,547	3,547
その他	4,465	3,839
無形固定資産合計	8,035	7,386
投資その他の資産		
投資有価証券	23,387	24,609
長期貸付金	430	427
退職給付に係る資産	24,113	24,538
繰延税金資産	6,772	6,124
その他	15,486	15,987
貸倒引当金	△522	△522
投資その他の資産合計	69,669	71,164
固定資産合計	615,580	622,090
資産合計	757,264	775,997

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	8,967	9,115
短期借入金	68,961	65,208
1年以内償還社債	10,000	10,000
リース債務	1,521	1,594
未払法人税等	6,885	5,532
契約負債	4,996	5,937
賞与引当金	2,665	1,032
その他の引当金	60	55
資産除去債務	104	24
その他	39,966	35,606
流動負債合計	144,130	134,106
固定負債		
社債	165,000	175,000
長期借入金	171,506	181,670
リース債務	15,935	14,900
再評価に係る繰延税金負債	23,891	23,891
退職給付に係る負債	17,131	16,482
長期預り敷金保証金	28,668	28,953
資産除去債務	5,302	5,539
その他	3,617	2,862
固定負債合計	431,053	449,300
負債合計	575,184	583,407
純資産の部		
株主資本		
資本金	38,803	38,803
資本剰余金	26,981	26,981
利益剰余金	105,044	119,137
自己株式	△1,923	△4,790
株主資本合計	168,905	180,130
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,070	7,929
土地再評価差額金	△1,048	△1,048
為替換算調整勘定	784	△806
退職給付に係る調整累計額	7,274	6,321
その他の包括利益累計額合計	13,080	12,396
非支配株主持分	94	63
純資産合計	182,079	192,590
負債純資産合計	757,264	775,997

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
営業収益	222,588	221,840
営業費		
運輸業等営業費及び売上原価	137,719	137,301
販売費及び一般管理費	51,817	54,117
営業費合計	189,536	191,418
営業利益	33,051	30,421
営業外収益		
受取利息	193	33
受取配当金	281	310
持分法による投資利益	238	2
為替差益	959	1,235
受託工事事務費戻入	45	39
雑収入	196	106
営業外収益合計	1,915	1,726
営業外費用		
支払利息	2,439	3,054
雑支出	388	445
営業外費用合計	2,827	3,499
経常利益	32,139	28,648
特別利益		
固定資産売却益	1,218	35
固定資産受贈益	1	—
投資有価証券売却益	156	1,636
工事負担金等受入額	—	2
補助金収入	150	65
受取補償金	450	40
特別利益合計	1,976	1,780
特別損失		
固定資産売却損	21	2
固定資産除却損	204	205
固定資産圧縮損	916	63
支払補償費	—	403
その他	—	23
特別損失合計	1,142	697
税金等調整前四半期純利益	32,973	29,731
法人税、住民税及び事業税	9,373	9,913
法人税等調整額	544	△558
法人税等合計	9,918	9,355
四半期純利益	23,055	20,375
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△1	△0
親会社株主に帰属する四半期純利益	23,057	20,376

(四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	23,055	20,375
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	323	1,859
為替換算調整勘定	△464	△1,716
退職給付に係る調整額	△742	△952
持分法適用会社に対する持分相当額	162	96
その他の包括利益合計	△720	△713
四半期包括利益	22,334	19,662
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	22,342	19,692
非支配株主に係る四半期包括利益	△8	△30

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	32,333	71,476	53,586	49,610	15,581	222,588	—	222,588
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	484	△44	3,222	297	4,672	8,633	△8,633	—
計	32,817	71,432	56,808	49,908	20,254	231,222	△8,633	222,588
セグメント利益 又は損失 (△)	4,598	△137	16,647	10,292	1,806	33,206	△154	33,051

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失 (△) の調整額は、セグメント間取引消去であります。
3. セグメント利益又は損失 (△) は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	運輸業	流通業	不動産業	ホテル業	その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
営業収益								
外部顧客への 営業収益	33,489	73,927	41,721	56,894	15,806	221,840	—	221,840
セグメント間の 内部営業収益又は 振替高	512	△2	3,355	309	4,983	9,157	△9,157	—
計	34,002	73,924	45,076	57,204	20,790	230,997	△9,157	221,840
セグメント利益	5,720	512	9,299	13,840	1,282	30,655	△233	30,421

- (注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ビルメンテナンス業等の事業を含んでおります。
2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。
3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。）及びのれんの償却額は、次のとおりあります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	18,162百万円	18,515百万円
のれんの償却額	51	22